

公表 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		放課後の家 明和2				公表日	令和8年 2月 20日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		地域最大規模の体育館を用意している				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		児童の状態や支援上の注意点を共有するため、毎日のミーティングや引き継ぎを丁寧に行っている。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動の切り替えが苦手な児童にも、事前に見通しを持たせることで安心して過ごせる環境を整えている。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		動線を確保するため、不要な物を置かないようにし、スッキリとした空間を保っている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		職員が児童の状態を観察し、必要に応じて個別利用を提案している				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		提案内容は会議で取り上げ、実行可能なものはすぐに試すなど、スピード感を持って改善を進めている。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		送迎時の会話や連絡帳を通じて、日々の意向や要望を把握するよう努めている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		改善後の効果も振り返り、次の改善につなげるPDCAを回している。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者に自社の取組が理解しやすいように運営時の写真などをふんだんに使って資料を作成している				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		キャリアアップにつながる研修も紹介し、職員の成長を長期的に支援している。				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		誰が担当しても同じ質の支援が提供できるよう、マニュアル化も進めている。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個別支援会議を設け、複数の職員が意見を出し合いながら課題や強みを整理している。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画内容を全職員に共有し、支援方法や留意点を明確にしている。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		月次の振り返りで、計画の目標達成度や支援の効果を職員全体で確認している。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		結果をもとに支援内容を見直し、こどもの成長に合わせた支援ができるようにしている。				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		必要に応じて支援内容を修正し、より効果的な支援につなげている。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		振り返りを継続することで、より質の高いプログラム作りにつなげている。				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		他事業所の取り組みや研修で学んだ活動例を参考にし、プログラムの幅を広げている。				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		職員全員が同じ方針で支援できるよう、情報共有を徹底している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援中も職員同士が声を掛け合い、連携を取りながら支援を進めている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		小さな気づきも積み重ね、継続的な支援改善につなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録を根拠にすることで、感覚ではなく客観的な視点で支援を見直している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		こどもの状態に変化があった場合は、速やかに支援内容を見直せる体制を整えている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		活動後の振り返りで、基本活動の視点から支援内容を見直している	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		選んだ活動が難しい場合も、サポートしながら達成感を得られるよう工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		情報の抜け漏れがないよう、記録や日々の気づきをまとめてから会議に臨んでいる。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		サービス担当者会議に積極的に参加し、こどもの状況や支援の方向性を共有している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		必要に応じて学校と協議し、今後の対応方針を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者から、園での様子や支援の工夫を聞き取り、事業所での支援に反映している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援専門員を中心に、移行先の事業所と会議を行い、こどもの状況や支援のポイントを共有している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修で得た知識を日々の支援に取り入れ、支援の幅を広げている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		事前に見通しを持てるよう、写真や説明を使って活動内容を伝えている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		学んだ内容を職員全体で共有し、支援の質向上につなげている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者の気づきや意見を丁寧に聞き取り、支援に反映している	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者の相談に丁寧に対応し、家庭と事業所が協力できる関係づくりを大切にしている	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明を行っているか。	○		保護者が質問しやすい雰囲気づくりを心がけ、随時相談に応じている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者の希望と専門的な視点をバランスよく取り入れ、こどもにとって最適な支援内容を検討している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者が納得したうえで同意書に署名してもらうようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		こどもの特性や行動の背景を踏まえ、家庭での関わり方や環境調整のポイントを具体的に伝えている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者の声を大切にし、希望があれば新たな交流の場づくりも検討している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		こどもが安心して意見を伝えられるよう、日頃から信頼関係づくりを大切にしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		保護者が事業所の取り組みを理解しやすくなることで、安心感や信頼関係の向上につながっている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		保護者からの質問や不安に対して丁寧に説明し、安心して利用できるよう努めている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		焦らせず、こどもが自分の気持ちを表現できるよう時間を確保している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		高齢者施設との交流を定期的に行っている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		保護者へも感染症情報や対応方針を適宜伝え、安心して利用できる環境づくりに努めている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		こどもの特性に配慮した訓練方法を工夫している	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		活動中の様子や表情、行動の変化を細かく観察し、体調不良や発作の前兆に気づけるよう努めている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		利用開始時に医師の指示書を提出してもらい、除去すべき食品や緊急時の対応方法を確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		こどもの特性に合わせた環境調整を行い、安全に活動できる環境づくりを徹底している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難訓練の実施後には、通信や連絡帳で訓練内容やこどもの様子を共有している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		新任職員にも事例を共有し、同じミスを繰り返さないよう教育している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		気になる場面があればすぐに相談できる環境を整え、組織として防止に取り組んでいる。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束を避けるための代替手段を常に検討し、職員研修を実施している		